令和６年度

授業改善推進プラン

板橋区立赤塚第二中学校

【国語】

■生徒の状況	リーディングスキルテストの結果について「同義文判定」「具体例同定」における能力値平均を昨年度までと比較すると値が大きく下がっていた。与えられた二文が同義かどうか正しく判定する力や文と非言語情報（図表）を正しく対応づけることが苦手であった。また全国学力学習状況調査によると、意見と根拠など情報と情報との関係についてりかしているかどうかをみる問題と目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題についての正答率が東京都の平均を下回っていた。
■指導についての課題	授業では、意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多い。論説文や小説を読むことに関しても積極的に取り組んでいる。しかし、読む際に１つの事柄のみに偏ってまとめてしまう傾向がある。様々な事柄を関連づけて筆者の主張が何なのか、また、書かれている情報を整理して、正しく分類していくことが必要である。そのための語彙力を高めていくことが必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	文章の単元を扱う際に、どんなことが書かれてあるのかアウトプットする時間を設ける。書かれてあることを細かく分類し整理するような授業展開や課題を設定する。さまざまな情報から何が書かれているのか読み取る練習を行っていく。情報を正しく分類できるよう、読書量を増やし、語彙力や知識を高めていく。

【社会】

■生徒の状況	各学年ともに落ち着いて授業に取り組むことができており、グループ学習にも積極的に参加できる生徒が多い。調べることや、周りの生徒と協力して課題に取り組む力は高いと考えられる。また、グループ活動においても学習の問いをふまえた発言ができている。
■指導についての課題	グループワーク等を取り入れ、生徒が考える授業展開は定着してきた。また、ほとんどの生徒が授業に参加できるような支援に力を入れている。また一人１台端末の導入によって、プレゼンテーションをとおした活動もスムーズに行うことができている。また、学んだことから深く考えることのできる生徒がもっと増えるような指導、工夫をしていく。
■授業改善に向けての具体的な方策	毎回の授業における学習の問いの精選を行い、生徒が積極的に取り組みたいと思う課題、生活に結び付くような課題を工夫していく。さまざまな資料を比較する活動を積極的に活用し、生徒が考える活動を行うことで、より思考が深まると考えられる。また、到達させたい思考の深まりのレベルに生徒が達するよう、課題の構成を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目ざしていく。

【数学】

■生徒の状況	各学年ともに落ち着いて授業を受けることができている。また、１学期末の生徒アンケートによると「数学の授業の内容はどのくらい分かりますか」という調査に対して「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と肯定的に答えた生徒は全学年で７７．２％だった。しかし、９学年の全国学力学習状況調査の正答率は５１％だったので、基礎的な学力が定着しているとは言いがたい。
■指導についての課題	学力の差が大きく、全体に対する指導だけではカバーしきれない部分がある。数学（算数）という教科自体に苦手意識のある生徒に基礎学力を身につけさせることが課題である。
■授業改善に 向けての具体的な方策	ノートにわかりやすくまとめることを重視して指導していくとともに、ＩＣＴを利用して視覚的に内容を理解しやすい授業を展開する。また、個別に質問する時間を設けたり、難易度別のプリントを用意して生徒に選択させたりするなど個に応じた指導を展開していく。

【理科】

■生徒の状況	意欲的に授業に取り組むことができており、実験や観察では班の仲間と考えを共有しながら、積極的に参加することができている。しかし、計算やグラフの読み取り問題を苦手とする生徒が多い。
■指導についての課題	理科に対して苦手意識を持っているため、計算問題やグラフ読み取り問題に対して消極的になってしまっている生徒がいる。そのため、ICT を活用し、わかる授業を目指していくとともに、グループ学習を取り入れ、一人で悩まず、仲間とともに学ぶことのできる対話的な授業を実現していく。
■授業改善に 向けての具体的な方策	生徒が理科の魅力や学ぶ意義に気づくことのできる授業を展開していく必要がある。例えば単元の最後に、学んだ内容が身近でどのように活かされているのかを調べることを課題として取り入れ、日常生活との関連付けをおこなっていく。また、実験や観察などの体験型学習を多く取り入れるとともに、ICT を活用し、生徒が「面白い」と感じることのできる授業をおこなう。

【外国語】

■生徒の状況	１学期末の学習に関するアンケート結果では、授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の割合が、６割後半から７割であった。概ね授業を理解している様子ではあるが、引き続き「わかる授業」と生徒が達成感を味わうことができる「できる授業」を継続していく。
■指導についての課題	４技能５領域をバランスよく育成する他、パフォーマンステストを継続し、言語活動を充実させた統合的な英語学習を展開していく。特にアンケート結果では、「書く活動」に苦手を感じている生徒も多く見られたため、適切なアプローチを行っていく。
■授業改善に 向けての具体的な方策	生徒が自信をもって、書くことができるよう、「話す」と「書く」を連結させた言語活動や教師の評価方法についても見直す必要がある。具体的には、生徒の英作文の正確さだけでなく、範囲（Range）も評価に入れていく。

【音楽】

■生徒の状況	・表現及び鑑賞の授業に意欲的に取り組む生徒が多く、授業のめあてや到達目標に対して自分がどの程度理解したか振り返り、今後の課題について書くことがおおむねできている。 ・表現の技能を習得するための反復練習や、鑑賞教材について調べることなどにタブレットを活用することがおおむねできている。
■指導についての課題	・音楽の曲想や諸要素、歌詞の内容などをふまえて表現の工夫を考えたり、鑑賞の授業で学習した知識をもとに考えた音楽の魅力を考えたりすることはできるが、そのことが伝わるように表現することに自信をもてない生徒がある程度いる。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・授業内でペア活動や少人数学習の場面を設け、自信をもって自分の考えを発表できる機会を増やす。 ・意見発表や相互鑑賞を通して、他者のさまざまな捉え方から学びを深められるような授業づくりを行い、お互いに励ましあえるような場面を設定する。

【美術】

■生徒の状況	・ 各学年とも落ち着いて、積極的に学習している。 ・ 第７学年は、小学校での図画工作の内容と違う部分があるが積極的に美術に親しみ取り組んでいる。 ・ 第８学年は丁寧に作品を仕上げる事を目標に学習活動を行い興味・関心をもって取り組んでいる。 ・ 第９学年は、これまでの学習活動を生かし、より多様な自己表現を目指して完成度の高い作品を目指し、努力し、積極的に取り組んでいる。
■指導についての課題	・ 全体的に美術を愛好し、積極的に作業に取り組んでいるが、中には不得意な作業があり課題が進まない生徒もいる。個々の能力に応じたレベルで、楽しく取り組めるような題材と指導の工夫がさらなる課題であると考える。
■授業改善に 向けての具体的な方策	・ ３年間を通して基礎・基本から多様な表現活動に取り組めるような題材内容を設定する。 ・ 「鑑賞」の授業においては、知識なども活用しながら自分の見方や感じ方を大切にする。身の回りの造形や作品のよさや美しさなどを豊かにとらえ、生活の中の美術の働きや文化についての理解を深め、幅広く味わうことのできる鑑賞の能力を養うために、個々の作品に対する思いや考え方を説明し合う。そして自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるように他者との交流を図る。また、 自分の作品を他の人に解説し、制作の意図を発表する場面を工夫し設定していく。

【保健体育】

■生徒の状況	授業への取り組みは、意欲的な生徒は多いものの、単元によって好き嫌いが出てしまっているのが現状である。しかし、生徒同士の教え合い活動等は積極的に行っている。
■指導についての課題	課題解決に向けて前向きに取り組む生徒は主体的、能動的に活動できているが、その単元を苦手とする生徒は消極的になってしまう。そうした生徒が積極的に活動できる工夫をしていく。
■授業改善に 向けての具体的な方策	生徒が自分自身を客観的に捉えることが苦手になっていることから、技能など言葉で伝えるだけでなく、ICT 機器を活用して、自身の動きを確認し、改善できるような活動を多く取り入れていく。楽しくできる要素を加えることで、苦手意識がある生徒も積極的に取り組んでいけるよう指導していく。

【技術家庭】

■生徒の状況	授業に対して意欲的な生徒が多く、中でも実習に真面目に取り組むことができる。また、周りの友人とともに考え、問題点に気付き、自分で解決できる生徒もいるが、改善することができず、質問もできずにいる生徒もいる。
■指導についての課題	実生活での経験不足から、基礎的な知識や技能が身に付きにくい生徒がいる。また、一斉指導で理解できず質問を優先させる現実もある。個々の能力の違いから時間内に作品を完成できない生徒もいる。
■授業改善に 向けての具体的な方策	生徒の興味関心を高めるため、また、生徒が安全にスムーズな作業を行うために、書画カメラやスライド、一人一台端末などを利用して、作業の手順などを各自でも確認しながら進められる指導をしていく。また２～４人で互いに学び合う学習の中で、得意な生徒の意欲を高め、苦手な子の技能の向上を図る。また、提出物等の管理もオンライン上で行うことで、いつでもどこでも作業を行える環境を整備している。ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を目指していく。